

輝け 未来をつなぐ若者たち

— 技能実習生と受入企業の30年の歩み —



外国人技能実習制度30周年記念誌

公益財団法人 国際人材育成機構（略称／アイム・ジャパン）

03

株式会社大川鉄工所

本 社：〒047-0048 北海道小樽市高島1丁目2番1号

受入開始：2017年1月

受入職種：鉄工/構造物鉄工作業

受 入 国：ベトナム

HP：<http://okawa-t.com/>



大川 晃弘 代表取締役社長

<企業プロフィール>

大正8年4月、北海道小樽市豊川町で曾祖父の大川元蔵がまちの小さな鍛冶屋として大川鉄工所を創業し、昭和12年に小樽市石山町に移転しました。その後、建築金物工事、鉄骨製作と展開し、平成30年4月21日に100周年を迎えました。環境や市場に対応して変化してきた大川鉄工所のキーワードは「覚悟」です。次世代へつなぐための覚悟は変わることなく受け継がれており、新たな時代に引き継いで力を合わせて輝く未来へとつないでいきます。

弊社では溶接技能検定を社内で実施しています。技能実習生はもちろん、日本人も、経験者だけでなく営業職の女性など未経験者もみんなが参加しやすいようなくみを用意して開催しています。

ものづくりは人にしかできないことが間違いなくあると思います。しかし、人口が減り続ける中で日本のものづくりを継続していくのは難しいのが現状です。当社で100年かけて積み重ねてきた伝統と技術は日本人だけではなかなか伝承しきれないので海外の方に技術移転していくために、技能実習生を受入れることにしました。まず家族や社員から賛同を得るために、会社が発展していくには外国人の方の力が必要だということを自宅でテレビにパソコンを繋ぎプレゼンをしました。家族も最初は「もし犯罪などあったら」などという不安はありました。受入れを開始した今は妻が一生懸命な技能実習生をみて「かわいいね」と言っています。

技能実習生も日本人もいろんな人がいて、動きが良い人がいれば悪い人もいるので、いかにそこを柔軟に乗り越えていくのかが100年歩んできた会社の課題だと思います。技能実習生が加わったことによ

り環境が変わり、新たな会話が生まれて社内が活発になりました。やはり、人がいない街が寂しいのと同じで会社も人がいないと寂しいです。ベトナム人技能実習生が来てくれて1人2人と増えていくと経営者としてもうれしい限りです。

受け入れ開始当初は日本語がなかなか伝わらず我々もどうしていいか分からることもありましたが、時間が経ち技能実習生がいる環境に慣れていくと丁寧に指導できるようになりました。現在は日本人の役割がそれぞれ決まり、積極的にコミュニケーションしてくれる年配の方たちもいて、みんなで日本語を一生懸命教えてくれています。

技能実習生への指導で特に力を入れていることは「日本語」です。生活、実習に関しても日本語を覚えることで早く慣れていくと思います。だから日本語をまず覚えていただき、同時に「安全第一」という2つのことを伝えています。





「私も勝負してくる。みんなも勝負する。 実習生も勝負する。」

日本人従業員から「技能実習生が入れ替わると、技術が流れていってしまうのではないか」という声もありましたが、2024年末にベトナムに現地法人の設立を計画しており、現在日本にいる技能実習生に帰国後も現地で働いていただけないかと考えています。この現地法人も私が経営する予定です。会社のトップは簡単に見つかるものではなく経営権を渡しても全て任せて責任を負ってもらうことは難しく、それなら全部自分でやろうと覚悟を決めました。私も挑戦します。技能実習生も日本人も覚悟を決めて挑戦してくれる人と一緒に人生を歩みたいと願っています。

